



謹賀新年

「第 21 回志賀町を描く美術展」大賞作品

「牛の鳴声が響きわたる」

中山 一昭さん（金沢市）



INDEX

- 町長新年のご挨拶 2 ~ 3
- 平成21年度上半期財政事情の公表をします 5
- 行財政改革アンケート調査結果の公表 6 ~ 8
- 情報パーク 18 ~ 20
- 生涯学習だより 21 ~ 23



謹賀新年



志賀町長 小泉 勝

新年、明けましておめでとうございませす。

町民の皆さまには、すがすがしい新春をお迎えになられたことと、心からお慶び申し上げます。

▼昨年を振り返ってみて

昨年は、世界同時不況に始まり、新型インフルエンザの世界的な大流行や北朝鮮によるミサイル発射など、世界的に深刻な問題が発生しました。これらに連動して、国内では急激な景気の後退と雇用環境の悪化、猛威を振るインフルエンザの脅威や、地球温暖化に起因すると思われるゲリラ豪雪やゲリラ豪雨などの異常気象といった暗い話題が多い年でした。

また、昨年夏には政権が交代したことによって、国の政策に大きな変化が生じ、地方経済においても少なからず影響を及ぼしています。道路行政やダム整備などにとどまら

ず、政府の行政刷新会議で行われた事業仕分けや税制改正論議、制度変更にかかわる検討など、今後の動きを注視する必要があります。があると考えています。

財政面では地方交付税や国庫補助金、交付金の行方が気になるところですが、町税においても原子力発電所の固定資産税の減収などにより、収入の減少は避けられず、今後の財政見通しは決して楽観できるものではありません。

▼新たな町づくりに向けての思い

私は常々、「町政は、町民目線でおこなわれるべきもの」と考えています。

厳しい財政事情の中だからこそ、町政の執行にあたっては町民の目線に立って、事業の選択や行政判断をし、公平で公正な町づくりを推し進めて行かなければなりません。

志賀町には、まだまだたくさんの課題が山積しています。そうした課題を丁寧に順序立てて解決していくことが大切だと思っています。

▼若者の定住促進

〈西山台ニュータウン造成と企業誘致〉

町の活力は、多くの若者の定住があつてはじめて生まれてくるものだと思います。

町では、若者定住策の一つとして、西山台ニュータウンの造成事業を実施してきました。ようやく第1工区の造成が完了し、今年4月から予約をいただいている方々の住宅建設ができるようになっています。第2工区も今年の夏には分譲を開始できる見込みとなっています。こちらは町外の方に優先して分譲し、町内に定住していただきたいと考えています。



第1期工事が完了し、現在は2期分を造成中の西山台ニュータウン



能登中核工業団地
現在は28社の事業所が立地



堀松工業団地
現在は7社の事業所が立地

若者の定住を促進するためには、住宅地だけではなく、働く場所が必要になります。

志賀町には能登中核工業団地と堀松工場団地があります。積極的に企業誘致を推進するとともに、既存企業が業務を拡大できるようにフォローアップも行い、若者の雇用の場の創出にも全力を挙げていきます。

▼子どもたちの教育環境整備
〈小学校統廃合と保育園再編〉

若者が増えれば、子どもたちも増えることが期待できます。しかし、これまでの少子化の流れは速く、富来小学校、富来中学校、志賀中学校はそれぞれ既に統合を終えました。志賀地域にある小学校7校については、昨年までに統合案が示されましたが、子どもたちが小学校生活を送るために最も良い学校のあり方を再検証するために、各界各層からのご意見やご提言を集約することとしました。小学校の統合問題は子どもたちの事を第一に考え、子どもたちにとって、どんな統合のスタイルが良いのか、早急に結論を出していきたいと考えています。



高浜小学校
町内では富来小の311人に次いで301人の生徒が通う



高浜保育園
災害時には近隣住民の避難場所にも指定されている

少子化の影響は当然ながら保育園にも及んでいます。保育園は町内に公立と私立を合わせて10カ所あります。現状を見た時、保育園の再編もまた避けては通れない課題であると認識しています。保育園の再編については、「志賀町保育所適正配置検討委員会」の提言を尊重し、オープンな形での意見交換を行い、保護者の方々の合意を得た上で進めていかなければならないと考えています。

町の宝である子どもたちのために、ふさわしい保育、教育環境を整える事は、町にとって最重要課題であります。町で充実した教育を受け、将来もこの町に住み続けたいと思えるような町づくりが求められますし、そうした町づくりを進めていくためにも、町民の皆さまのご理解とご協力を今後ともお願い申し上げます。

▼町民の強い要望

〈水道料金の統一と悪臭問題〉

町民にとって上水道は身近で生活に不可欠な施設です。合併時から志賀地域と富来地域では水道料金が不均一になっています。

合併協定では、平成22年度に富来地域の料金を中間改定し、平成27年度に料金統一をすることになっていますが、前倒しによって、早期に統一してほしいという町民の皆さまからの強い要望があります。

現在、水道事業の将来像を示す「地域水道ビジョン」と、水道料金を統一した場合の「経営シミュレーション」を策定していますので、この結果を受けて、議会や水道事業経営審議委員会との協議を進め、平成22年度中に統一したいと考えています。

また、志賀地域では市街地での畜産による悪臭の解消を求める声が多く聞かれます。

町の顔とも言うべき市街地には、住宅が集中し、学校や保育園、文化施設などの公共施設が多数あるほか、飲食店や食料品の販売店なども立地していますので、悪臭問題は一刻も早く解決したいと考えています。町では、昨年から石川県や関係機関にも協力を要請して、事業主と対策について協議を進めています。早

期にこの問題が解決するよう、精力的に取り組んでいきたいと考えています。



スーパーや多くの飲食店、事業所などが並ぶ高浜市街

▼結びにあたり

私は、「将来にわたって安心して暮らせる、住みよい町づくり」を念頭に、今後も町政の執行にあたってまいります。

今、行政には変革が必要です。時には、痛みを伴うこともあるかもしれませんが、それは可能性に満ちた未来に向けての通過点であることをご理解いただき、元氣な町づくりのために、町民各位のなご一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びにあたり、今年1年が皆さま方にとっても、志賀町にとっても良い年でありますよう、心から祈念いたします。新年のごあいさつといたします。

平成22年元旦

「第21回志賀町を描く美術展」

輝かしい受賞者表彰

今回で21回目となる「志賀町を描く美術展」が、12月21日（土）から29日（日）まで富来活性化センターで行われました。

この美術展は、旧富来町で平成元年から始まりました。当時は、富来の美しい自然や生活、産業などを描き、絵画を通じて芸術文化の振興とふるさとの再発見を願ってスタートしました。

このときに応募があったのは、147作品でした。今年も洋画や日本画など296点の応募がありました。会場を訪れた人たちは食い入るように作品をながめたり、少し離れたところからながめたり

と、普段目にする風景や写真とは違う魅力に引き込まれているようでした。

12月21日（土）に富来活性化センターで「第21回志賀町を描く美術展」に受賞者40人が出席し、表彰式が行われました。

今回、大賞に選ばれたのは金沢市に住む中山一昭さんで、初受賞となりました。志賀町からは3人が特選などを受賞しました。



「牛の鳴声が響きわたる」で大賞を受賞した中山一昭さん（金沢市）

「大賞を受賞したお気持ちを聞かせてください。大賞になるとは思っていなかったのですが、大変光栄です。この美術展へは何回目の出品ですか。10年ぶりに出品しました。一から出直す気持ちで描いたので、大賞を受賞できるとは思っていませんでした。この作品を描くのにどれくらいかかりましたか。製作期間は2カ月かかりました。なぜ、放牧場を選んで描いたのですか。10年前からずっと富来放牧場を描いていました。放牧場が好きなので、今回も放牧場を選びました。」

「受賞した喜びを聞かせてください。大変うれしいです。製作期間はどれくらいかかりましたか。」

「受賞した作品は、今年の2月に見つけた場所です。枯れ木が多かったです。木が緑色に覆われる春先に描き始めました。45日から50日くらいかかりました。その間、10回以上この作品の場所に足を運びました。」

「この美術展へは何回目の出品となりますか。7回目になります。子供のころから絵を描くことが好きでした。その時にいくつかの賞をもらったことがあります。その時の成功体験があるものですから、定年後に再び絵を描き始めました。」



「新緑の生神」で特選を受賞した小堀浩さん（志賀町）

「特選を受賞した喜びを聞かせてください。非常に喜んでいきます。一どうしてもこの絵を描こうと思いましたが。本日は弁天島を描こうと思ったのですが、経験が浅く上手に書けるかわからなかったため、悩んでこの絵を描きました。私は古いものを描くのが好きで、建物の絵にしても古いものを描くのが好きなんです。製作期間はどれくらいかかりましたか。描き始めたのは7月からですが、仕事をしているので少しずつ描きました。この美術展へは何回目の出品となりますか。今回で4回目です。絵を始めたのも4年ほど前からです。」



「時の過ぎゆくまに（弁天島遠望）」で特選を受賞した橋本絹子さん（志賀町）